

北見市地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

北見市は北海道の東部に位置するオホーツク圏最大の都市であり、面積は北海道では第1位、全国では第4位の広さである。地域の公共交通は鉄道(JR)、路線バス、タクシーであるが、特に市民の移動手段となる路線バスは、近年、自家用車の普及、人口減少等の社会情勢の変化に伴い利用者は年々減少傾向にある。

しかしながら、自家用車等の移動手段を持たない住民にとって、公共交通は、日常生活を送る上で重要な役割を担っており、障がい者の社会参加や超高齢化社会への対応を考えると、その必要性はより一層高まってくることが予測される。

このことから、持続可能な公共交通の体制を構築することを目標に掲げ、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統を組み合わせることで、生活交通ネットワークの構築を進めている。

生活交通確保維持改善計画の目標

- 夕陽ヶ丘線(小泉8号—西8号線—小泉8号)**
平成29年度の1日の乗車人数403人の4%増加をめざす。
目標 1日の乗車人数 419人
- 川東・若松地域コミュニティバス線**
平成29年度の1日の乗車人数39人の3%増加をめざす。
目標 1日の乗車人数 40人

令和元年度事業概要

- 夕陽ヶ丘線(循環線:小泉8号—西8号線—小泉8号)**
 - ・運行日数 364日(元旦のみ運休) ・運行回数 平日及び土日祝日 14回/日 計5091回(※雪害のため運休5回) ・運賃 市内均一210円(片道)
 - 小泉8号を起点・終点とする循環線である。運行経路には、大型商業施設、医療施設、大学、高校等が含まれており、通称、買い物バスとして運行している。
- 川東・若松地域コミュニティバス線(北見—川東・若松—北見)**
 - ・運行日数 364日(元旦のみ運休) ・運行回数 平日9回(往復) 休日8回(往復) 計3156回
 - ・運賃 路線バス区間均一210円(片道) デマンド区間 410円(片道)
 - 北見バスターミナルを起点・終点とする路線バス区間とデマンドバス区間による運行を行なっている。若松大橋から川東住宅街を廻り、北見老人ホームまでを路線バス区間とし、北見老人ホームから川東郊外及び若松地域を予約制のデマンドバス区間として運行している。

地域公共交通の現況

- ・JR石北本線10駅
- ・北海道北見バス(株)25路線、網走バス(株)2路線、市営バス2路線
- ・タクシー(市内4事業者) ・スクールバス(13路線)

協議会開催状況

- 平成31年1月22日 平成30年度第3回会議を開催
 - ・地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(書面協議)
- 平成31年2月18日 平成30年度第4回会議を開催
 - ・西25号豊田バス停留所の新設(協議)
 - ・瑞穂地域スクールバス一般混乗の本格運行について(報告)
- 令和元年6月18日 令和元年度第1回会議を開催
 - ・令和2年度地域公共交通確保維持改善事業申請について(協議)
 - ・令和元年度公共交通利用促進策(案)について(協議)
- 令和元年7月30日 令和元年度第2回会議を開催
 - ・市営バスの運賃変更について(協議)
 - ・きたみ交通便りVol.13の発行について(報告)

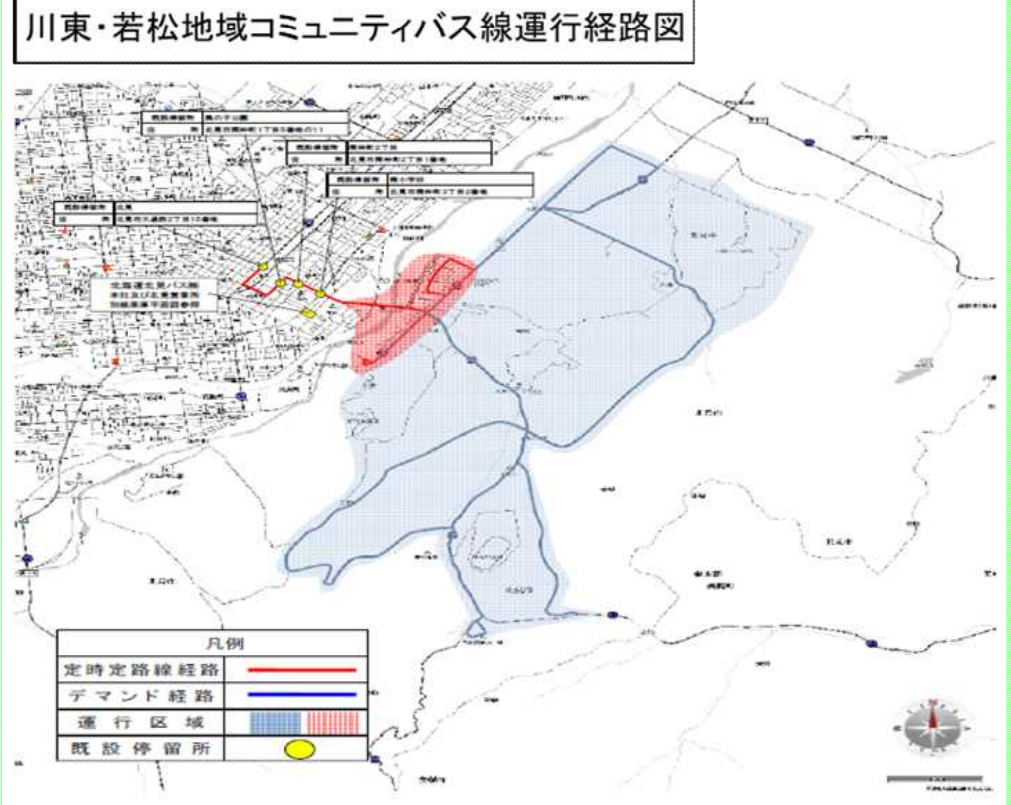
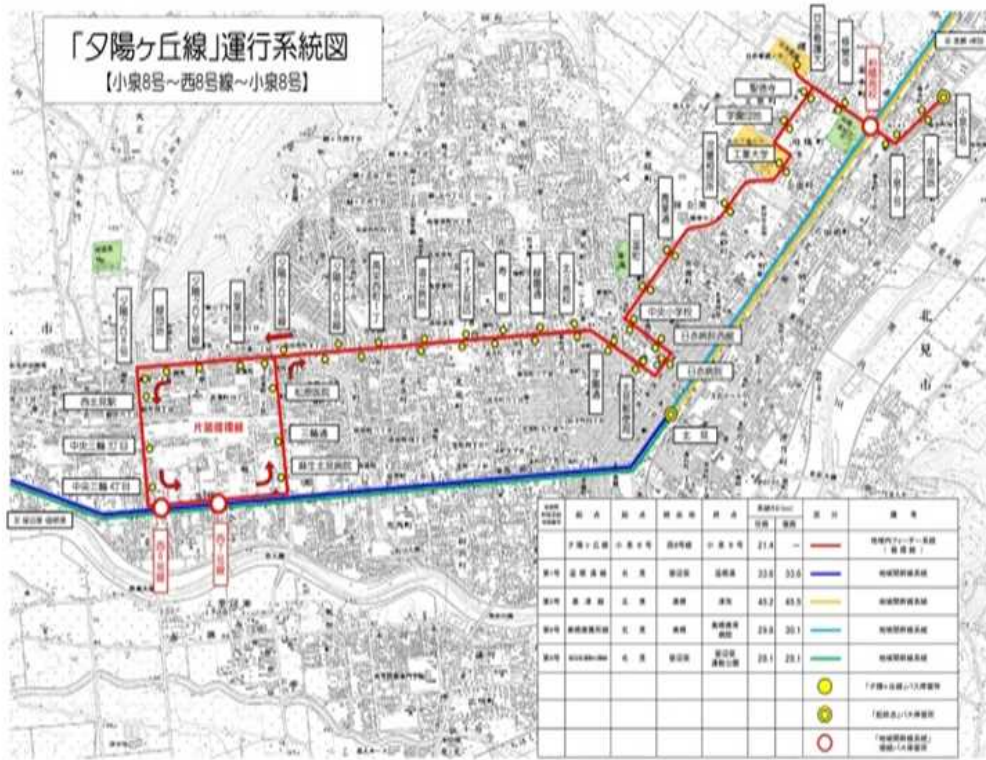
令和元年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

【夕陽ヶ丘線、川東・若松地域コミュニティバス線】

- ・北見市の身近な交通の情報を掲載した「ニュースレター」を発行し、全戸に配布した。
- ・「たんの太陽まつり」にて子ども向けの利用促進策を実施した。
- ・市小学校と連携し、小学5年生を対象として実際のバス車両を使った乗車体験をするなど、バスの乗り方教室を実施した。

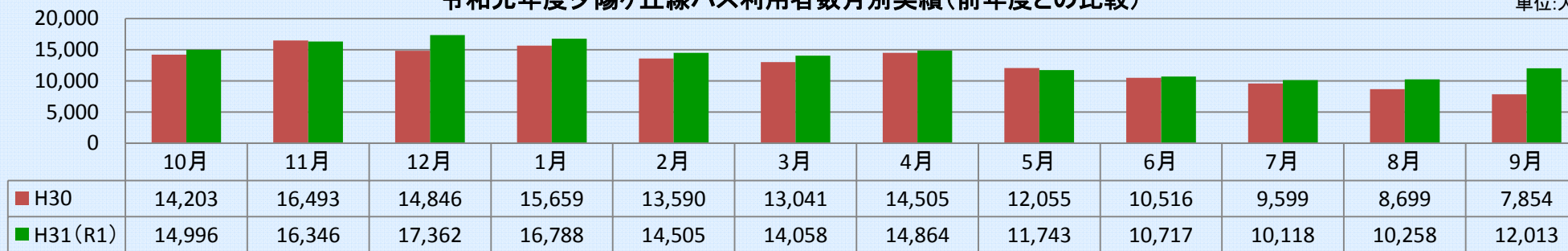
2) 運行系統



3) 利用実績

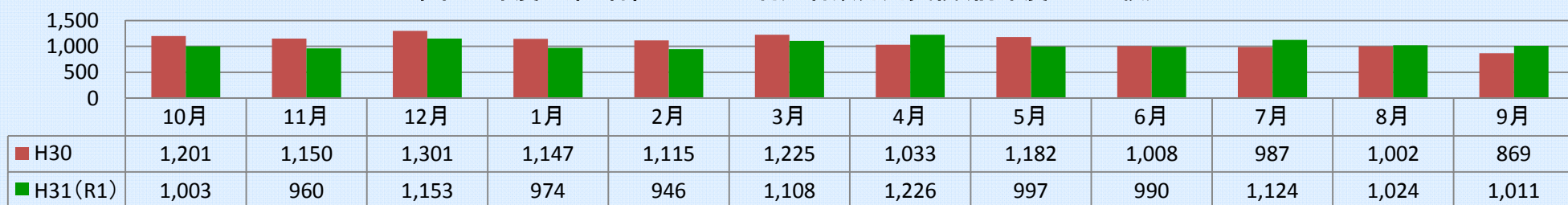
令和元年度夕陽ヶ丘線バス利用者数月別実績(前年度との比較)

単位:人



令和元年度川東・若松地区バス利用者数月別実績(前年度との比較)

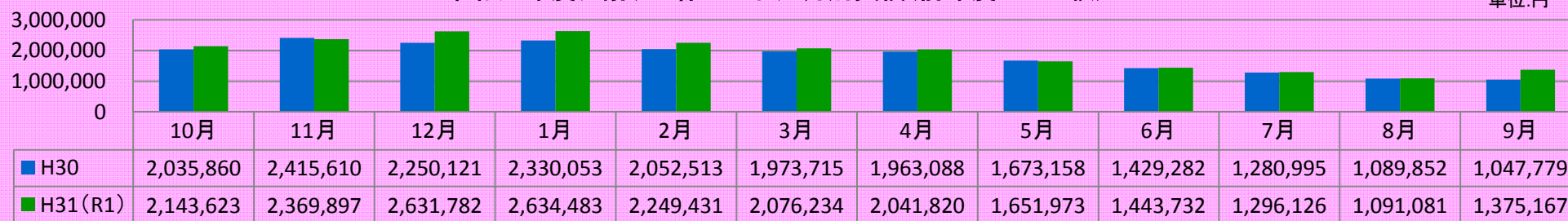
単位:人



4) 収入実績

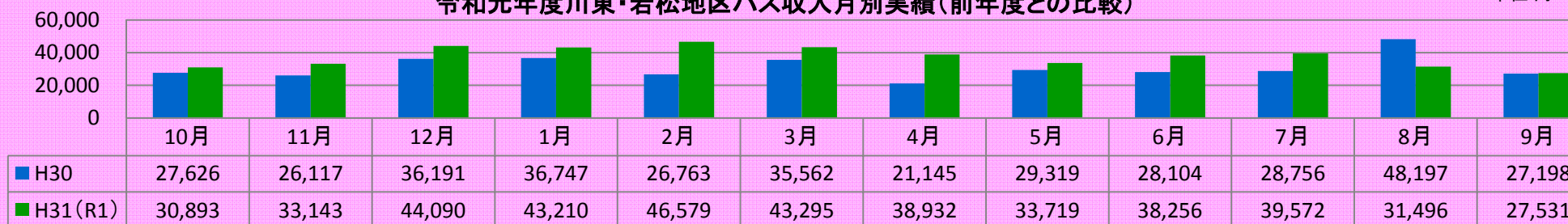
令和元年度夕陽ヶ丘線バス収入月別実績(前年度との比較)

単位:円



令和元年度川東・若松地区バス収入月別実績(前年度との比較)

単位:円



5) 事業実施の適切性

●夕陽ヶ丘線

事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施されている。

●川東・若松地域コミュニティバス線

事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施されている。

7) 事業の今後の改善点

●夕陽ヶ丘線

沿線住民への啓発活動等による利用促進に向けた取り組みだけでなく、引き続きイベント等を活用し、市全体の利用促進を実施し、潜在需要の掘り起こしに努める。

●川東・若松地域コミュニティバス線

今後は利用実績だけでなく、詳細な利用実態の把握に努め、利便性を高められるよう、地域の実情に合わせた運行ダイヤの見直しなどを検討する。

また、高齢者等に対して利用目的を提案するなど、当路線を利用しやすくなるような情報提供を行う。

6) 目標・効果達成状況

●夕陽ヶ丘線

利用目標419人/日に対し、実績は449人/日と目標に達している。運行経路には、大型商業施設、医療施設等が含まれていることから、高齢者を含めた幅広い年齢層の利用者が増加しており、日常生活での利用が拡大していると考えられる。

●川東・若松地域コミュニティバス線

利用目標40人/日に対し、実績は34人/日と目標に達することができなかった。H30.9に発生した胆振東部地震でのブラックアウトの影響により10月以降も外出を控える傾向が続いたほか、冬期間の降雪量が少なく、マイカーからバスへの転換が少なかったことが要因の一つとして考えられる。

8) 地方運輸局における二次評価結果

(令和2年度と併せて評価)